

社会貢献

OKIグループは、社会貢献活動の基本理念「良き企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて、考え、行動し、共感を得る社会貢献活動を実践する。」に則り、寄付や地域貢献、社員のボランティア活動支援などを組織的に推進しています。

震災被災地への継続的な復興支援活動

OKIグループは東日本大震災の被災地復興のために、継続的な支援活動を実施しています。復興支援ボランティア活動として、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンが主催する「東日本大震災復興コレクティブアクション」に2013年度から参加し、宮城県亘理町の防潮林再生を目指す「わたりグリーンベルトプロジェクト」を支援しています。

また2016年4月の熊本地震発生に際し、被災者の救済や被災地の復旧にお役立ていただくため、義捐金として300万円の支援をしました。

2015年度に実施した東日本大震災復興支援活動

- 社員による復興支援ボランティア活動(宮城県亘理町):延べ18名参加
- 「OKI蔵文化彩」において東北物産展を開催(福島県、宮城県)
- 公益社団法人日本フィナンソロピー協会「被災地の子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト」に参加:グループから収集した115冊を寄贈

寄付型ボランティア「OKI愛の100円募金」

OKIグループは、活動の主旨に賛同するグループ会社(2016年4月時点で30社)の役員・社員から毎月100円の募金を集める「OKI愛の100円募金」により、ボランティア団体の支援などを実施しています。その一環として日本赤十字社の血液事業支援を1996年度から継続的に実施しており、2016年2月には、通算で26台目となる献血運搬車を、静岡県赤十字血液センターへ寄贈しました。

肢体不自由の子どもたちの社会見学を支援

OKIグループの特例子会社OKIワークウェルは、特別支援学校におけるキャリア教育を継続的に支援しています。2016年1月には、香川県立高松養護学校に、音声・映像・ホワイトボード機能を備えた「遠隔授業ソリューション」を提供し、同校小学部の肢体不自由の子どもたちの社会見学を支援しました。小豆島にある同校分室の教員がネットワーク経由で島の醤油会社の蔵の中の様子を本校に中継し、本校の児童はいながらにして、醤油蔵の歴史や醤油造りの過程などを体験的に学習することができました。

国内外で環境保全のためのボランティア活動を実施

OKIグループは国内外の各拠点において、環境保全を目的とした社員参加型のボランティア活動を継続実施しています。



マングローブ植林を行った社員ボランティアたち

2015年度の環境保全ボランティア活動

活動場所	活動概要
日本 (群馬県高崎市、静岡県伊豆市、長野県小諸市)	里山の除伐・間伐を中心に行う森林ボランティア活動を計5回実施し、延べ207名の社員が参加
タイ (サラブリー県)	社員・家族200名が参加し、伐採跡地に、国指定保護樹木各種の苗木6,000本を植林(10月)
タイ (チョンブリー県)	社員81名が参加し、海岸にマングローブ300本を植林(6月)
中国 (広東省深圳市)	社員・家族60名が参加し、国連「世界海の日」の記念行事として15万匹の稚魚を放流(6月)

Voice

青年海外協力隊に参加

OKIソフトウェア 通信ソリューション第二グループ 大田 遥

2013年7月から2年間、OKIグループの青年海外協力隊現職参加制度を利用して、タンザニア国立中央図書館で図書館システムの導入と職員への使い方指導に携わりました。技術者の不足、頻発する停電などに加え、働き方や考え方など文化の違いにも直面しましたが、徐々に職員との信頼関係を築くことでシステムも軌道に乗り、どのような環境にあっても自ら歩み寄り話し合うこと、積極的に行動することの大切さを痛感しました。



蔵書入力作業の指導